

2022年度 第1回広報委員会 議事録

日時 2022年4月6日(水) 13:30～17:00
会場 WEB会議
出席者 12名

(敬称略)

代協	委員名	代協	委員名	代協	委員名
沖縄	野原 早織	東京 ○	大和 親英	高知	都築 弘典
北海道	姫野 芳安	愛知	橘 恭浩	鹿児島 ○	田中 拓
神奈川	酒井 錦吾	奈良	辰巳 嘉敏		

<担当副会長> 山口 史朗

<事務局> 常務理事:小見 隆彦、特命部長:金澤 亨、特命部長:大谷 隆(記)

<オブザーブ> 新日本保険新聞社 金井次長、毎栄 小松氏

:委員長、 :副委員長

<委員会での決定事項>

- ・みなさまの保険情報誌のHP上の料金表を見やすくする。
- ・4/21PR企画動画作成業者向けヒアリングを15時～17時に開催する。

議 事

.挨拶

1.野原委員長挨拶

- ・リアルで出席された方と残念ながらWEBでの参加となった方もいるが、昨晩は遠足の前の日のような気持ちでワクワクしながら本日を迎え、この気持ちが届いたのか東京は沖縄のような温かさになっている。ここに来ている委員はもちろん画面越しでも皆さんの元気な顔が見れたことに感謝している。
- ・3/25の広報委員全国会議が無事成功したことに改めて感謝申し上げます。
- ・今日が今年度第一回目、かつ、このメンバーでの最後の広報委員会になる。思い残すことの無いように言いたいことを言い合って締めたいと思うので協力願います。

2.司会進行・議事録作成者の指名

- ・司会進行に田中副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

.報告事項

1.報告事項

(1)第8回 理事会報告

事務局より、配布した第8回理事会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

- ・今回、審議事項は無し。
- ・「代協正会員実態調査」の報告、「会員懇談会質疑回答」について説明があった。
- ・事業計画進捗状況について、地区担当理事・各委員会委員長より報告があった。

(2)臨時総会報告

事務局より、配布した臨時総会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

- ・2022年度(第59期)事業計画案が承認された。
- ・2022年度(第59期)正会員会費額案が承認された。
- ・2022年度(第59期)収支予算案が承認された。

(3)2022年度事業計画、委員会諮問事項報告

事務局より、臨時総会で承認された2022年度事業計画および委員会諮問事項について説明が行われ、以下の補足をした。

広報委員会諮問・推進事項は以下の4点

1. 日本代協並びに損害保険トータルプランナーのブランド力向上に向けたPR施策の検討・実施・活用(対外広報)
2. 各代協のホームページ運営に係る共通ガイドラインの浸透
3. 「みなさまの保険情報」の利用拡大に向けた情報提供と具体的推進(他委員会との共同取り組み)
4. 「代協の魅力を伝えるツール類」の活用推進(体内広報)

(4)2021年度第2回「活力研」報告

事務局より、3/2に開催された「活力研」について報告が行われ、以下の補足をした。

- ・今回は、前回の活力研で提示した「保険会社と代理店間のコミュニケーションギャップ・課題への対応」を再整理し資料として事前に配布した。その中で「合併・統合」「乗合承認申請・手続き」「代手ポイント制度全般」「保険会社と代理店の費用負担」の4つのテーマで論議した。日本代協HP会員専用書庫に公開済みの議事録と資料を掲示してある。

(5)前回委員会の振り返り

前回の広報委員会論議内容、決定事項を議事録で確認した。

・審議事項

1. 「みなさまの保険情報」活用推進

(1)2022年7月号 企画案

- ・新日本保険新聞社の金井次長より、「みなさまの保険情報」2022年7月号の企画案が提示された。

1面の保険業界のテーマについて、以下の5案が提示された。

- 「悪質な特定修理業者への注意喚起」
- 「ハザードマップの啓発」
- 「自動車盗難事故実態調査結果の紹介」
- 「レジャー事故への注意の呼びかけ」
- 「公的保険ポータルサイト開設の目的や内容紹介」

(主な意見)

- ・案についてはHPとか監督指針をそのまま載せる予定なのか、可能であれば金融庁のHPへ誘導できるようにしていただけるとインパクトのあるテーマになると思う。

- ・案は昨年7月号でも取り上げているが書きぶりを変えて再度取り上げるのか。
先日、損保協会の担当部署への取材を行ったので担当者との一問一答形式で掲載できたらと考えている。

・インターネットを検索していると特定修理業者のような広告が散見されるようになっているので改めて注意喚起をしても良いと思う。

・消費者向けに配る情報誌なので案が旬な話題だと思う。

多数決により提案された5案の中から「公的保険ポータルサイト開設の目的や内容紹介」を1面のテーマとすることで決定し、内容についての要望・討議を行った。

2面以降のテーマについては以下提案があり意見無く提案内容で決定した。

2面：「違反を繰り返してしまう人の特徴！」

3面：「経営者が万一のときの借入金返済の見込みはできていますか？」

4面：「肩の筋肉(三角筋)の引き締め」(QRコードで動画でも視聴可能とする)

(2)4月号購入状況

4月号の購入状況について確認し、今後の推進について討議した。

- ・購入部数が前年に比べ大きく減少(2,230部)しているのは合併統合による現象なのか？

大口で購入している会員が部数を減らしたことも一要因である。

- ・先月の全国会議でも意見が出たが、日本代協のホームページに掲載されている料金表が分かりづらい(特に名入れした場合の料金が不明確)。

新日本保険新聞社と連携し改善することとした。

- ・全国会議で部数を限って会員に無料配布できないのかという意見があり、討議事項にならないか。

無料で配るのはどうかと思うが、代協事務局で購入しモニターとして1会員に配布して次年度以降の購入をすすめているところもある。

(山口副会長)代理店としてお客さまに情報提供義務を果たす時にその情報がタダなのでは考えが甘すぎるのではないかと思う。

- ・旬な話題なのでお客さまにも案内しやすい。購入率が3.6%と伸び悩んでいるが草の根運動で増やしていきたい(4月号のお知らせチラシを執筆した野原委員長より)。

次回お知らせチラシの執筆担当は大和副委員長であることを確認した。

2.2021年度PR企画情宣状況報告

株式会社毎栄よりPR企画の情宣状況報告が下記のとおりあった。

特設サイト運用報告(3/1～3/31)

- ・ユーザー&セッション数は2月に比べ1割増えており543人、滞在時間は平均して2分50秒。
- ・特設サイトへのアクセス経路で多いのがdirect(URL直接入力、QRコード等)、次いでSocial(YouTubeからの流入)となっている。ほとんどが広告からの流入である。
- ・男女比では男性55.7%、女性44.3%、年齢層では25歳～54歳までが大半を占めている。

- ・WEB CM の視聴回数は 525,267 回と広告配信の成果が出ている。1 月からの累計が 130 万回を超え、想定視聴回数 85 万回を大きく超える結果となった。
- ・配信期間中の視聴者数を男女別、年齢別でみると、男女別では約 66%を男性が占めた。また、年齢別では 55～64 歳が 34%と一番多く、45～54 歳と合わせると全体の 6 割を占めている。
- ・アシスト動画の視聴回数は 193 回で 2 月と比較して 2 割程度増えたが、約 57%がチャンネルページからとなっており、特設サイトからは 2 月同様 0 回であった。
- ・4 月以降は広告配信が無くなるので更なる情宣をお願いしたい。
- ・アシスト動画の視聴が伸びていないのが課題である (WEB CM は広告により成果が出ている)。

(野原委員長より)

- ・3/25 に広報委員 全国会議を開催したが、参加者からは今回の動画は講評であった。見ていただき気付いていただかないと意味がないので各代協のHPに特設サイトのバナーを貼り付けることを依頼した。

3. 2022 年度 PR 企画の骨子

今年度の PR 企画について討議した。

大和副委員長より、2022 年度 PR 企画の説明があった。

- ・前回の臨時委員会で議論をして大枠として昨年度と変更はしていないが、プレゼン参加業者へ発信する内容を確認いただきたい。
- ・特に問題無ければ参加希望の 4 社 (昨年度と変わりなし) へ案内し 4/21 に事前ヒアリングを行い 6 月に選考会を実施する (選考会は広報委員の任期満了なので新メンバーで行う)。
- ・事前ヒアリングの日程は 4 月 21 日の午後としているが時間帯について意見を聞きたい。

スケジュール調整の結果 4 月 21 日 15 時～17 時までとすることで決定 (各社 25 分) した。

2022 年度企画案につき特に昨年からの変更意見が無かったので参画業者へ案内することとした。

4. 広報委員 全国会議振り返り

野原委員長が 3/25 に開催した広報委員 全国会議の振り返りを行った。

- ・無事に最後までできたことが一番良かったと思う。委員の方にはリハーサルから付き合ってもらい、グループディスカッションでは多くの声を拾って頂いたことに感謝申し上げる。この会議で、今後の広報活動における課題となる所が見えてきたと思う。
- ・残念だったのが、全国 47 都道府県の委員が参加できなかった点ではあるが、年度末の開催であったにもかかわらず参加者が 50 名いたこと、グループディスカッションで各地の広報担当からの意見が聞けたことは成功だったのではないかと思う。
- ・グループディスカッションのメモを提出していない委員は至急提出していただきたい。

各委員からグループディスカッションの感想・今後の課題について発表があった。

(姫野委員)

- ・1 月の委員会で開催を決定し、時間のなかではあったが大成功だと感じている。
- ・グループディスカッションでは、広報活動を行うには横のつながり (他の委員会との連携) が重要だという意見があった。

(酒井委員)

- ・一人で悩んでいる委員が多くいるように感じた。
- ・昨年2回担当地域の広報担当者会議を行っており横のつながりができていて話易かったのではないかと。

(橘委員)

- ・北陸と東海ブロックが話し合うことはほとんど無かったので、いい機会になった。
- ・北陸ではTVや新聞広告、ラジオ出演等積極的な広報活動をしていることを知り参考になった。
- ・PR動画の評判は良く、これから視聴回数も増えていこう。
- ・みなさまの保険情報誌については名入れをして発行したいという意見が多かったので、HP上の料金表をもう少しわかりやすくしていただきたい。

(辰巳委員)

- ・近畿・阪神ブロックは参加者が少なかった。数値目標がある委員会では単位代協でも熱をもって取り組んでいるが広報委員会には数値目標がないので活動が後回しにされているようである。今後は他の委員会と連携していかないと活性化しないと思う。

(都築委員)

- ・どのようなメディアを使って情宣していくかの話題となり高知県代協の事例(地上波でのCM)を共有した。

(田中副委員長)

- ・ディスカッションの時間が短すぎるくらい盛り上がった。今後も続けて欲しいとの意見があった。
- ・もっと早く全国会議を開催していればとも思った。

(野原委員長)

- ・今回新しい形が見えてきた。各委員会には目的があって指標があり単体で動いているが、広報は単体で動こうとしてきたからうまくできなかったのではないかと。これからのあるべき姿として、例えば組織委員会の仲間づくりには広報が作成したPR動画を活用して欲しいとか、他の委員会と連携して広報委員会が動けるような関係を作っていかなければならないと思う。
- ・広報は消費者だけにアピールするものではなく、対内的な活動も重要であり各委員会の活動に各ツールをはめ込めるような計画を立てていけばよかったと思っている。指標は無くても役割はあるのだという事を形にして繋げていきたいと感じている。
- ・もっとはやくこの全国会議を開催していれば良かったと思っているが、第一回目を開催したことに意義があり、今回は大成功であった。

5. 広報委員 全国会議を受けての今後の展開について

各委員より3/25に開催した広報委員 全国会議の振り返り(改善点)を行った。

(姫野委員)

- ・グループディスカッションの時間が短く一人一人の意見が一言になってしまった。

(酒井委員)

- ・やはりグループディスカッションの時間が短い(ブロック単位で開催すればもっと時間が取れるので

はないか)。

- ・各県最低一名は出席していただきたい。
- ・HP 活用の重要性は皆さん認識しているので次回のテーマとしてHP 活用方法をあげてはいいかがか。

(橘委員)

- ・グループディスカッションのメンバーをブロックではなくシャッフルすることで、色々な意見や取組みが共有できると思う。
- ・年2~3回開催することでより理解が深まると思うので継続していただきたい。

(辰巳委員)

- ・必ず各県から出席してもらいミッションを与える必要がある。

(都築委員)

- ・各セッションの時間をもっと長くとした方が良かった。
- ・ブロック間での情報共有はメールを使っているが、そもそもメールを見ない人が多い。direct を展開できないか。

(田中副委員長)

- ・県代協の広報委員長はブロック会議でブロック内の情報は共有できているが、他県で何をしているかを知ってもらうことは必要だと思う。
- ・県によっては広報委員会が独立していない(兼務している)ところがあり広報が何をするのか浸透していない。そこを全国会議でテーマを絞って浸透させていければと思う。

(野原委員長)

- ・広報が何をすべきかを具体的に伝え切れていないのが現実で、広報が単独で仕事をするのではなく他の委員会とともに活動するのがあるべき姿だと思っている。横ぐしという意味は具体的なビジョンがないと伝え切れなく、今回の全国会議を開催することにより全国の委員に広報の役割を訴える力が備わってくるのではないか。
- ・皆さんの意見にあった通り「継続して取り組んで欲しい」「年一回は開催して欲しい」「ブロック単位でもやって欲しい」というのが気持ちの表れだと思い、それを形にして行きたい。

5.1 年間の振り返り

野原委員長が1年間(任期2年)の振り返りを行った。

- ・このメンバーでスタートしたときは、いきなりPR企画の審査をして47の動画作成に担当ブロックへの働きかけなどで忙しくなり何が何だかわからないうちに始まったと思う。それでもオンラインの中で意見を聞き広報のあり方を探っていただいたのではないかと考えている。
- ・この2年間でホームページ・SNSのガイドラインを作り上げたことも大きな一歩だと思う。そして、みなさまの保険情報誌はキャンペーンをやらずに会員が気付いて買ってほしいという思いから説明動画を作ることができた。
- ・一度も皆さんと会うことなくPR動画の制作会社が変わり、これまでの47都道府県の動画ではなく、皆様の意見を取り入れてもっと深みのある動画を作成することができた。
- ・皆さんには各代協の会長とのつながりや連携をお願いしたり、ブロック協議会での情報共有をして

いただき本当に感謝している。熱が伝わらない状況ではあったが皆さんに支えられ恵まれていたと思っている。

- ・激変の中の広報委員会であったが、良く進歩してきたと思うし無駄な活動ではなかったと自負している。
- ・広報委員長を仰せつかり途中何度も逃げたいこともあったが、一人ではなく皆さんのおかげで代えられない経験を積むことができたと思う。
- ・歩みの鈍い委員長だったが、私が委員長だったからこそ楽しい委員会だったと思う。
- ・本当にこの2年間感謝しているし、この2年間の活動を代協活動に活かしていただきたい。

各委員からの振り返り

(田中副委員長)

- ・2期4年間広報委員として有楽町に足を運んできた。何も引継ぎがないまま広報委員に選任され、いきなりPR動画のプレゼンで点数を付ける状態だった。ただ、47都道府県の動画を作るために九州北・南の会長と打合せをしたことが他県の人たちと交流する良い機会になったと思っている。
- ・野原委員長の下、和気あいあいと活動で来た4年間だった。今後もいろんな形で代協活動に携わりながら頑張っていきたい。

(都築委員)

- ・2期4年広報委員として、4年前何の引継ぎもなく不安な気持ちで委員会に出席したことを覚えている。4年間過ぎてみればあっという間だと感じているが47都道府県の動画撮影は勉強になった。
- ・2期目はコロナ禍で一度も皆さんに会えないまま終わってしまうが、委員長のおかげでメンバーにも恵まれ楽しい委員会だと思っている。コンベンション等で会える機会があると思うのでその時を楽しみにしている。

(辰巳委員)

- ・何の引継ぎもなく広報委員に任命され、コロナ禍で会うことも出来ず、広報に対する熱を伝えていくのに苦労した。一度だけブロック協議会でリアルで会うことができたが、それなりに意見交換ができたのでリアルは重要だと感じた。
- ・動画作成の裏側に接することができたので今後の活動にも活かしていけると思う。

(橘委員)

- ・代協の魅力や存在意義を広めるため広報委員として活動してきたが、ここで経験したことや皆様とのかかわりを今後の活動に活かしていきたい。その中でも野原委員長の存在が大きかった。
- ・ここまでやってこれたのは、チームの温かさや人間性、組織が持つ成長性に助けられ感謝の気持ちでいっぱいである。今後も代協の発展と業界の新しい未来に向けて尽力していきたい。

(酒井委員)

- ・広報委員会は楽しい委員会だと思って参加したが、担当9県の委員との広報に対するギャップに愕然とした。これではいけないと思い委員会でのことを県やブロックにしっかり落としどどのように活動していくかを考える様になった。それはこの委員会に参加させていただいたからこそだと思う。
- ・委員長の意見は間違えなく伝わっているし、全国会議の場に参加してこない人は不幸だと思うし、広報は役に立つ活動なのだ。ひいては県の為、自社の役に立つことだと感じて欲しいと思っている。
- ・皆さんの熱意が自分の普段の生活や代協活動に影響与えてくれたことを感謝している。

(大和副委員長)

- ・2期4年務めたが、やはり最初は訳が分からずPR企画の選考から始まったが、この2年間コロナで皆さんに会うことができなかつた一方でオンライン中心になったことにより打合せの回数が増えて、最初の2年間よりもいろんなことをやらせてもらったと思っている。

(姫野委員)

- ・2年間役に立てなかつた気がするが、委員長、副委員長の運営で助けられた。
- ・皆さんの活動は素晴らしいと感じているので今後の活動に活かしていきたい。

・閉会・その他

1. 情報提供および本日の到達点の確認

小見常務より下記情報提供があった。

- ・三冠王が確定した。特に神奈川のジギョケイは狙いに行き取ったので、この統率力と求心力は称賛に値する。あらためて三冠達成した都道府県はお疲れさまでした。
- ・実態調査について、すでに配信やHPへ掲載しているが、対内的ではあるが改めて広報として目を通していただきたい。本来は各代協の会長、三役、事務局から会員へ配信すべきであるが、そこが上手く機能していないところがある。日本代協ニュースにしても全ての会員に伝わっておらずどこで血栓がとまってしまっているのか、その情報が伝わるだけでも大分違ってくると思う。例えば、教育委員会がトータルプランナーについて、勧める先がもう無いと言っているが実態調査の結果では3割の会員が一人もいないと回答していたり、ぼうさい探検隊についても認知度が28.8%しかなく、3件やれば良いという考えから三役あたりでこなし、本当に会員がお客さまとコミュニケーションするまで伝わっていないことが明白になっている。もう一度、どの情報が届いていて、どの情報が届いていないかを実態調査の結果を見て詳細分析した上で会員の資質向上につなげられるかを見直していきたい。広報は全体を俯瞰してどこで情報が止まっていて、どこが活気が無いかという事を随時連携していく役割も必要だと感じた。

事務局より、本日の決定事項を再度確認した。

2. 山口副会長閉会挨拶

- ・まだ、事前ヒアリングが残っているが、2年間本当にお疲れさまでした。
- ・委員長が今の委員会はメンバーが素晴らしいとよく言っているが、私もそう思う。皆さんそれぞれ精力的に取り組んでいただいたし、特に酒井さんには感心している。常々問題や課題を明確にしてそれに対して具体的な取り組みを行う姿は素晴らしいと感じていた。
- ・全国大会を開催して本当に良かったと思っているし、大成功だったとも思っている。本日皆さんから今後に向けての課題を上げていただいたが、まさにその通りだと思う。やることによって成功と同時に課題が見えるのが当たり前であり、今後の広報委員会として、広報のあり方を考えていくなかでPDCAを回していただきたい。本当に広報委員会は情報を一つ伝えるにしても各担当地域にそれぞれ伝えなければならず本当に大変だと思う。広報委員会だからこそ、ITやSNSを駆使して担当エリアの広報委員長を集めて定期的に会議を開催していただく等の工夫をして情報が各都道府県代協に伝わるようお願いしたい。せっかく広報が素晴らしい取り組みをしているのに伝わらないのは残念なことである。今後とも課題を明確にしてPDCAを回しながら情報を伝えるために具体的な手を打っていただきたい。
- ・本日よりリアルで会えなかつた方には宿題だと思って必ずどこかで会いたいと思う。本当にお疲れさまでした。

次回開催日 2021年6月16日(木)10:00~19:00(オリエンテーション含む)